

中期経営計画 Vision2024 進捗

事業計画および成長可能性に関する説明資料

株式会社モルフォ
(東証グロース:3653)



本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものです。当該情報および仮説に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等により、実際の業績等は本資料記載の内容とは異なる場合がございます。

Vision



Rise above what we see, to realize what we feel

-人間の目を拡張し、感動に満ちた世界を実現しよう-



代表取締役社長
平賀 督基
Masaki Hilaga

2004

創業

2011

東証マザーズ上場

143

グループ社員

5カ国

海外展開

169

特許

53%

海外売上比率

19.9億

グループ売上

24%

研究開発費率

画像処理およびAI(人工知能)技術の研究・製品開発。
スマートフォン・半導体・車載・産業IoT向けソフトウェア事業
をグローバルに展開。

中期経営計画 Vision2024

ビジョン

Rise above what we see, to realize what we feel
—人間の目を拡張し、感動に満ちた世界を実現しよう—

経営目標

イノベーションを通じて顧客価値を最大化する

基本戦略

特定セグメントに経営資源を集中し、競合との差別化を実現することにより競争に勝つ

01

コア事業

1. Morpho Chinaを軸に、スマートデバイス事業の安定化と拡大を推進
2. Mobility事業のソリューション拡充

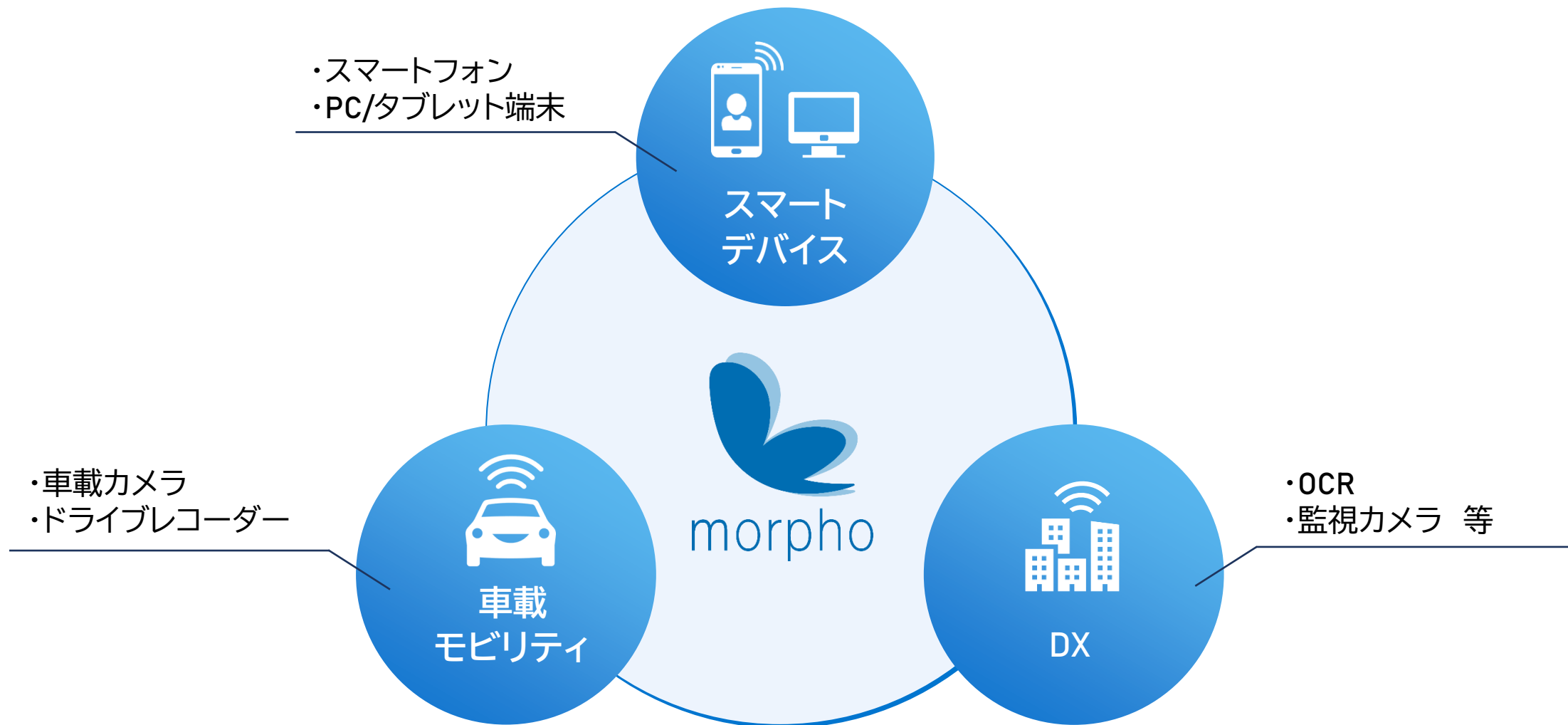
02

新規事業

1. モルフォAIソリューションズを軸に、スマートシティ(DX、監視カメラ関連)ビジネスを拡大
2. Top Data Scienceを軸に、ファクトリーオートメーションビジネスを拡大
3. オープンイノベーション推進による新規ビジネス開発

事業領域 / 事業戦略

先進のイメージング・テクノロジーにより、利便性・安心安全・生産性の向上に貢献する



中期経営計画



スマート
デバイス

1. 中華圏スマートフォンOEMのシェア拡大に伴い、中国拠点を強化
2. 主要スマートフォンチップセットメーカーとの関係強化



車載
モビリティ

1. 既存顧客との連携継続・強化
2. 自社商品によるロイヤリティビジネス事業化
3. ミックウェア社との戦略的提携によるビジネス創出



DX

1. 画像認識AI技術を用いたDX向けビジネス拡大
2. 監視カメラ画像解析AIで安心安全なまちづくりに貢献

19期(2022年10月期)振り返り

1. 海外主要顧客に対する販売力強化を推進。中国拠点を中心に顧客ニーズを即時把握・重点開発・他地域展開
2. PCチップセットメーカーとも関係強化。各社のチップセット採用動向を把握し、開発投資を事前最適化

1. 既存顧客との連携強化により、新規の開発案件が進行中
2. ドライバモニタリング領域で案件進行中
3. 道路保全の為のソフトウェア提供により、ミックウェア社の自動検診サービスの構築

1. NDLOCRを活用した市販ソフト「FROG AI-OCR」の提供開始。県立図書館、大学での利用開始
2. 介助が必要な人をリアルタイムで検出する「見まもりAI: Duranta」の提供拡大に向けた取り組みを継続

事業戦略 —スマートデバイス—

01

海外主要顧客に対する販売力強化を推進

顧客ニーズを即時把握・重点開発・他地域展開

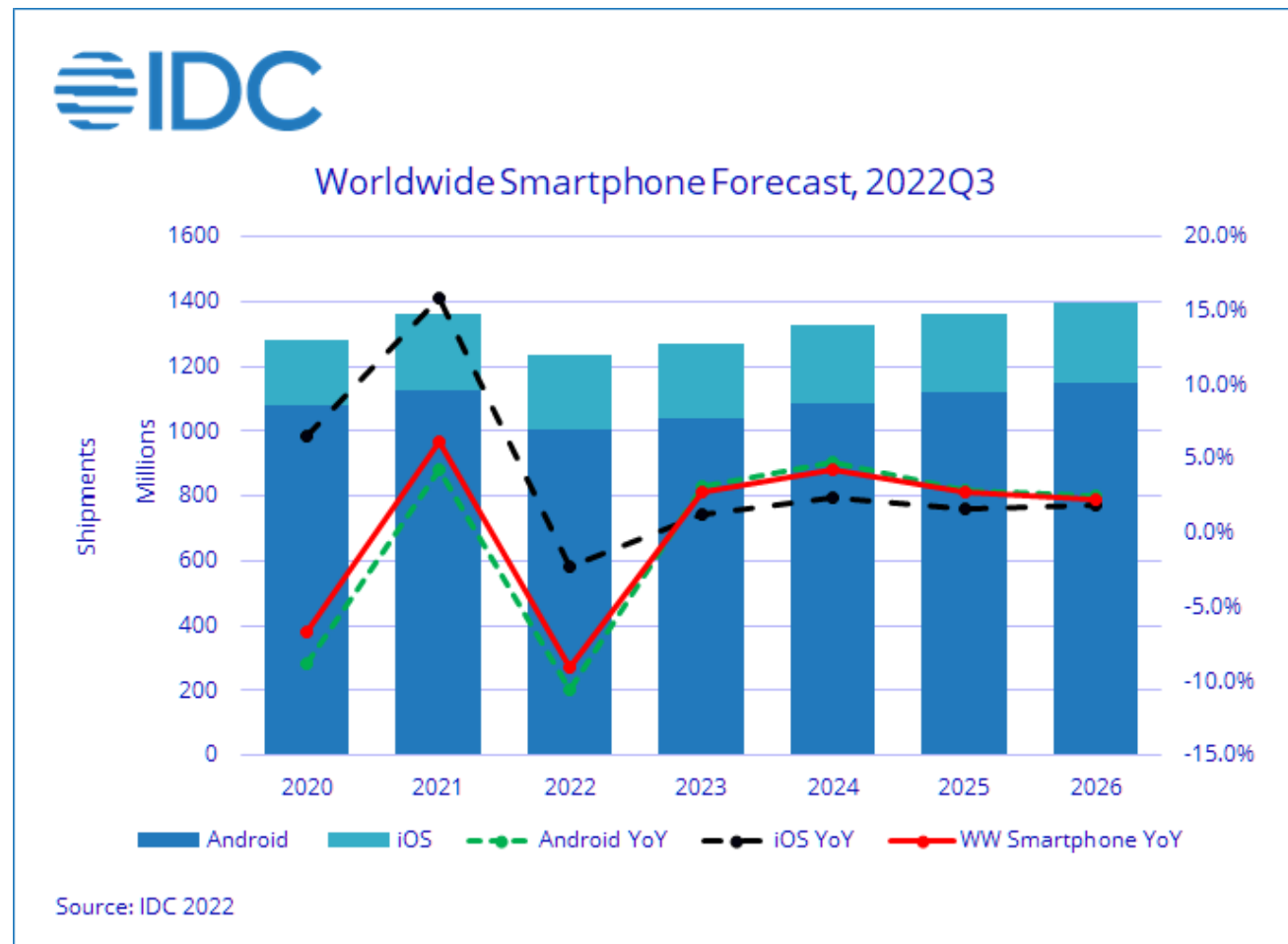
02

主要スマートフォン・PCチップセットメーカーとの関係強化

各社のチップセット採用動向を把握し、開発投資を事前最適化

2022年の出荷台数は前年比ベースで減少だが、2026年に向けて増加を見込む

世界スマートフォン出荷台数



出典：IDC Worldwide Smartphone Forecast

海外主要顧客に対する販売力強化を推進

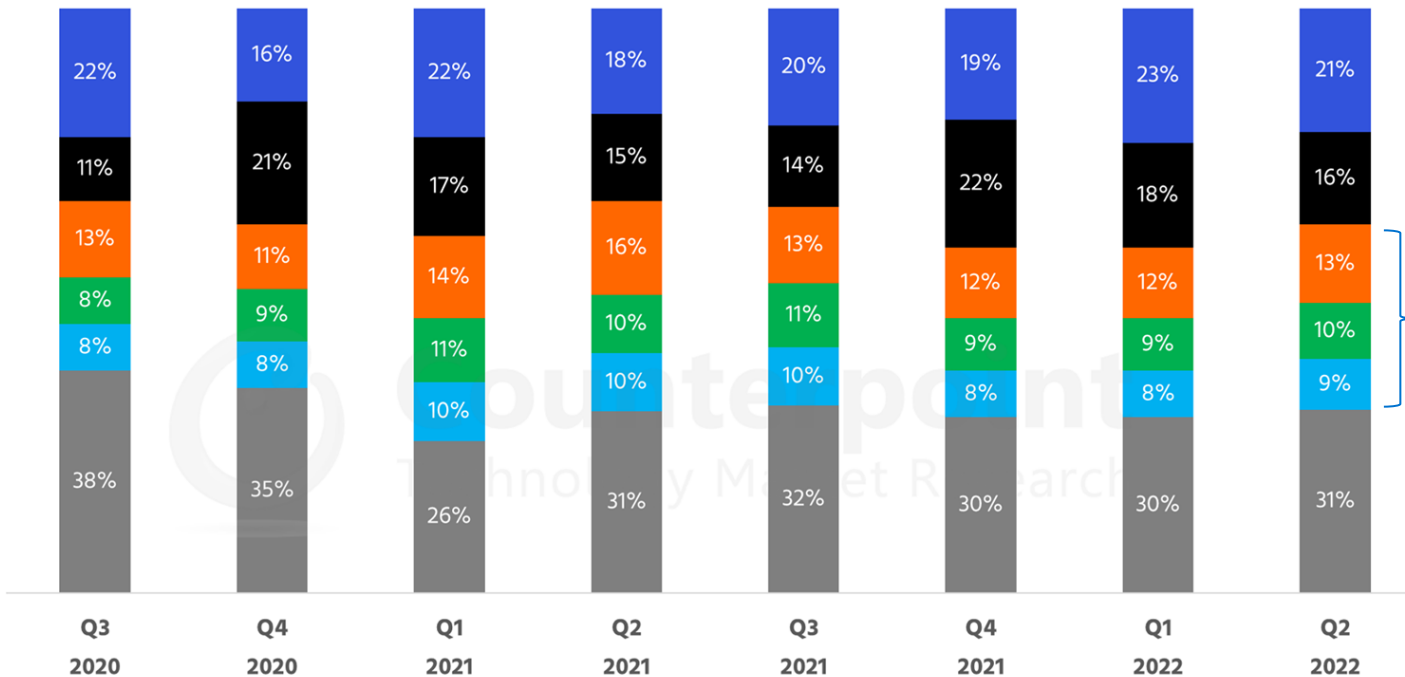
施策の
ポイント

- スマートフォンビジネスについて中国拠点(Morpho China)を中心に、顧客ニーズを即時に把握し重点開発・他地域へ展開

世界スマートフォン市場占有率



Global Smartphone Market Share (Q3 2020 - Q2 2022)



中華圏OEMが引き続き大きな市場シェアを占めている

動画手ぶれ補正機能は中華圏OEMから高く評価されシェア拡大中

* OPPO includes OnePlus since Q3 2021

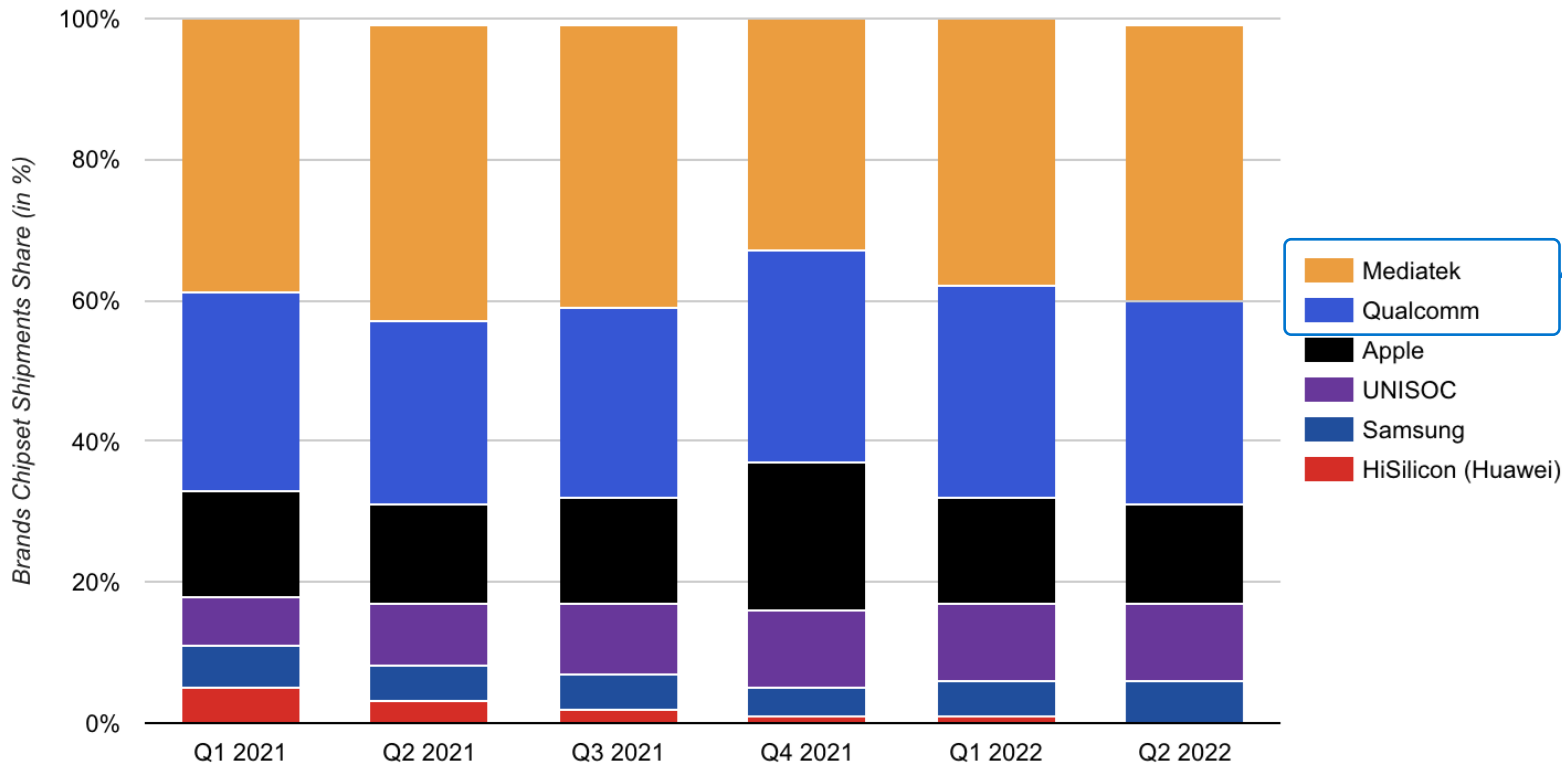
■ Samsung ■ Apple ■ Xiaomi ■ OPPO* ■ vivo ■ Others

地域子会社(米国、台湾)を通じた主要チップセットメーカーとの関係強化

施策のポイント

- スマートフォンOEMのチップセット採用動向を把握し、開発投資を最適化
- PC分野においてもチップセットメーカーとの協業を推進

世界スマートフォン向けチップセット市場占有率



スマートフォン向け大手チップセットメーカーとの関係を強化

スマートフォンの経験を活用しPC向けも大手チップセットメーカーとの協力関係を構築

米Qualcomm社 Snapdragon® Compute Platformに モルフォのソフトウェアを実装、さらなる協業を推進中

環境

コロナ禍によるビデオ会議の急増



世界のPCメーカーは、ビデオ会議におけるユーザー体験の向上を可能にする高度なカメラ機能を強く求めている。



モルフォのソフトウェアをSnapdragon® Compute Platformに組み込むことで、以下技術がユーザーのPCのフロントカメラに適用され、ビデオ会議をより快適に行うことが可能に

【画像処理技術】

- ワイドダイナミックレンジ補正(適応型ローカルトーンマッピング)
- AIベースの背景ぼかしや背景入れ替え
- 自動フレーミング
(動画内の被写体が常に画面の中心にズームされるように調整)
- 視線補正

PC市場におけるその他主要チップメーカーとの協業やPCメーカーからの要望に基づいた技術開発を推進中、新たなビジネスとして立ち上げる

事業戦略 ー車載モビリティー

01

既存顧客との連携継続・強化

共同研究開発を継続・拡大

02

自社商品によるロイヤリティビジネス事業化

独自商品開発および車載SoCメーカーとのパートナー連携

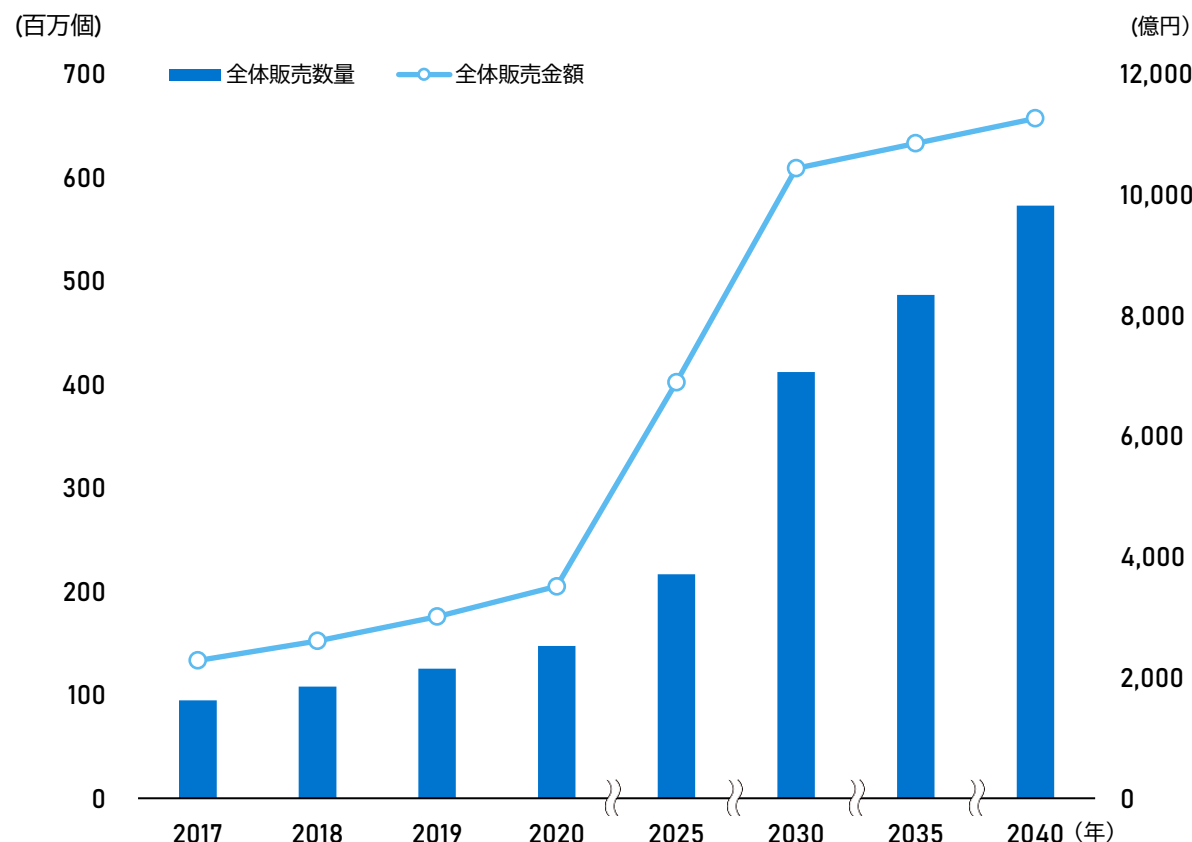
03

戦略的提携によるビジネス創出

資本業務提携締結等を活用した、既存ビジネスの付加価値向上と新規ビジネス協創を推進

ADASカメラ及びモニタリングカメラ機能として市場継続拡大

市場規模



出典：富士カメラ総研

市場概要(予測)

車載カメラ

市場成長率 (2020年⇒2025年)

数量	2.2億台	147%
金額	6,900億円	196%

カメラソフト市場をハードの20%と想定した場合：1,380億円

CAGR

数量	8%
金額	14%

世界的なEV拡大により
OEM各社ソフトウェア・センサ
ンサー・OSの投資増

モルフォとデンソーが共同研究開発した高度運転支援システム向け画像認識技術が、「Global Safety Package3」に採用

プレスリリース 2022年4月12日

株式会社モルフォ（所在地：東京都千代田区、代表取締役社長：平賀 督基、以下モルフォ）は、株式会社デンソー（所在地：愛知県刈谷市、代表取締役社長：有馬浩二、以下デンソー）と2015年12月より共同で研究開発を進めてきた、高度運転支援システム向け画像認識技術の一部が、デンソーが2022年1月に発表した車両の周辺環境認識および安全性能向上に貢献する「Global Safety Package3」に採用されたことを発表します。

「Global Safety Package3」は、カメラで自車の前方環境を検知する「画像センサー」と車両などを検知する「ミリ波レーダー」を組み合わせることで、ドライバーの運転を支援するシステムです。

今回採用された画像認識技術は「画像センサー」に応用されており、AI技術を生かして画像データから、車両、標識、歩行者などを高性能で検知し、車両の安全性能向上に貢献します。

モルフォは、今後もデンソーとの共同研究開発を通じて、認識性能向上に取り組むとともに、デンソーが目指す世界中のすべての人にとって安全で自由な移動の実現に貢献していきます。

ADAS分野

関連する当社技術：ディープラーニング
(例)人物検出、物体検出、セグメンテーション技術等



Morpho Pose Estimator for DMS

乗用車車内にカメラを設置し、乗員の表情や動きを撮影し、脇見や居眠り、眠気を検知して、事故のリスクを最大限抑えるための機器としてドライバーモニタリングシステム(DMS)が注目されています。当商品はこのDMS用途向けにディープラーニング技術を用いて最適化された姿勢推定エンジンで、乗員姿勢を高い精度で高速に推定します。



PC評価ツール/組込向け評価用SDK提供開始
APIマニュアル、サンプルプログラム付属

今後はより付加価値の高い
新機能を開発・発表予定

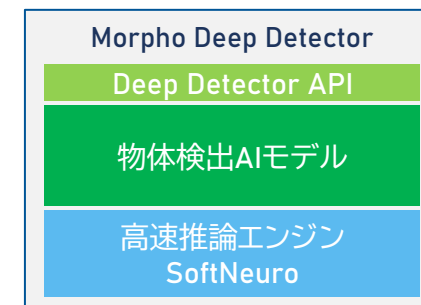
PUX社 顔認識ソフトウェア「FaceU for DMS」との統合デモソフトウェア

Morpho Deep Detector | AIによる物体検出ライブラリ

- DMS/OMS、ADAS、監視カメラなど用途に合わせて幅広く応用可能な基礎技術
- 適用例: 人物・自動車検出、忘れ物検出、ペット検出など

製品特長

- 任意の80品目を検出可能なAIモデルを標準搭載
- 高精度版、高速版など、用途に合わせたモデルを提供
- 推論エンジン「SoftNeuro」を搭載し、各種SoCのAIアクセラレーターを最大限に活かした高速・省電力動作が可能



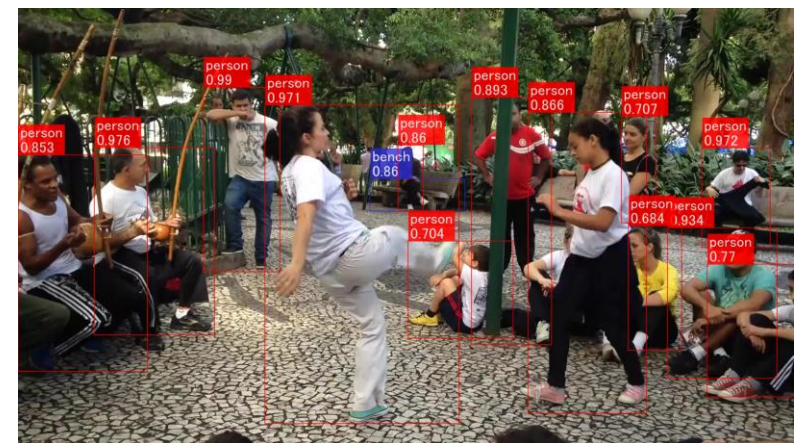
各種SoC

ソフトウェアの動作イメージ



詳細については、2022年12月21日発表「モルフォ、AIによる物体検出ライブラリ『Morpho Deep Detector™』の新バージョン3.0をリリース」をご参照ください。

1	person	人物	25	backpack	携帯品	57	chair	家具
2	bicycle	移動体	26	umbrella		58	couch	
3	car		27	handbag		59	potted plant	
4	motorcycle		28	tie	60	bed		
5	airplane		29	suitcase	61	dining table		
6	bus		30	frisbee	62	toilet		
7	train		31	skis	63	sink		
8	truck		32	snowboard	64	laptop		
9	boat		33	sports ball	65	mouse		
10	bird	動物	34	kite	66	remote	家電	
11	cat		35	baseball bat	67	keyboard		
12	dog		36	baseball glove	68	cell phone		
13	horse		37	skateboard	69	microwave		
14	sheep		38	surfboard	70	oven		
15	cow		39	tennis racket	71	toaster		
16	elephant		40	bottle	72	tv		
17	bear		41	wine glass	73	refrigerator		
18	zebra		42	cup	74	book		
19	giraffe		43	fork	75	clock		
20	traffic light	道路関連	44	knife	76	vase	雑貨	
21	fire hydrant		45	spoon	77	scissors		
22	stop sign		46	bowl	78	teddy bear		
23	parking meter		47	banana	79	hair drier		
			48	apple	80	toothbrush		
			49	sandwich				
			50	orange				
			51	broccoli				
		52	carrot					
		53	hot dog					
		54	pizza					
		55	donut					
		56	cake					

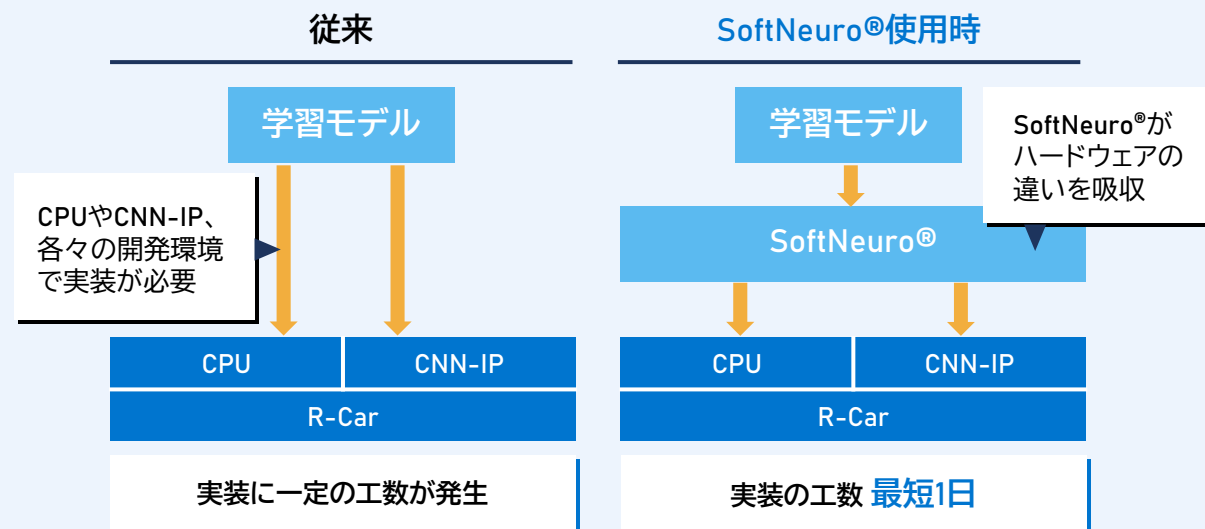


SoftNeuro®が、ルネサスエレクトロニクス社SoCに対応

新機能として「R-Car」シリーズ搭載のAIアクセラレーターエンジン「CNN-IP」に対応し、高速化を実現

SoftNeuro®が R-Carで実現できること

「R-Car」搭載のAIハードアクセラレーター「CNN-IP」を使用し、任意の学習モデルを**即時に高速実行可能**



ディープラーニング推論エンジン『SoftNeuro®』とは

モルフォが独自開発した世界最速級のディープラーニング推論エンジン『SoftNeuro®』は、主要なディープラーニング・フレームワークに対応し、様々なエッジデバイス環境で高速な処理を実行します。また、画像認識だけでなく音声認識やテキスト解析等にも利用できる汎用的な推論エンジンです。

加えて他のSoC、HW-PFへのSoftNeuro®対応を加速中

株式会社ミックウェアと資本業務提携を締結し、 道路保全の為のソフトウェアによる自動検診サービスの構築

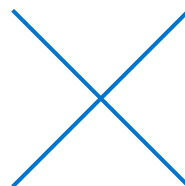
モルフォ

事業内容

- 画像処理およびAI技術の研究・製品開発

強み

- デジタル画像処理およびDeep Learningによる人工知能型画像認識に関する先進的な技術並びに人材を保有
- 組込みSWを得意にしてきたことを利用し、エッジからクラウドの柔軟なSW配置による最適ソリューション構築に寄与



ミックウェア社

事業内容

- コンピュータシステム・ソフトウェアの企画・開発・製作・販売

強み

- カーナビゲーション及び車載システムの開発や構築における高い技術力
- モビリティ事業を展開する各社とのコネクション及び幅広い知見とその信用

ミックウェア社 | 足立区での実証実験

- ミックウェア社の録画データ流通サービス「Mvcube™」に、AIによる道路の不具合検知技術を提供
- 2022年11月より足立区において、ミックウェア社の「Mvcube™」を活用した道路監視の実証実験が開始
- 足立区を走行するゴミ収集車の通信型ドライブレコーダーで録画されたデータはクラウドに収集され、モルフォのAI解析技術により、道路の不具合を検知します。



ミックウェアに納品した、道路のひび割れ、白線のカスレを自動検知するソフトウェア

事業戦略 —DX—

01

画像認識AI技術を用いたDX向けビジネス拡大

OCRを起点にBPOビジネスへ展開

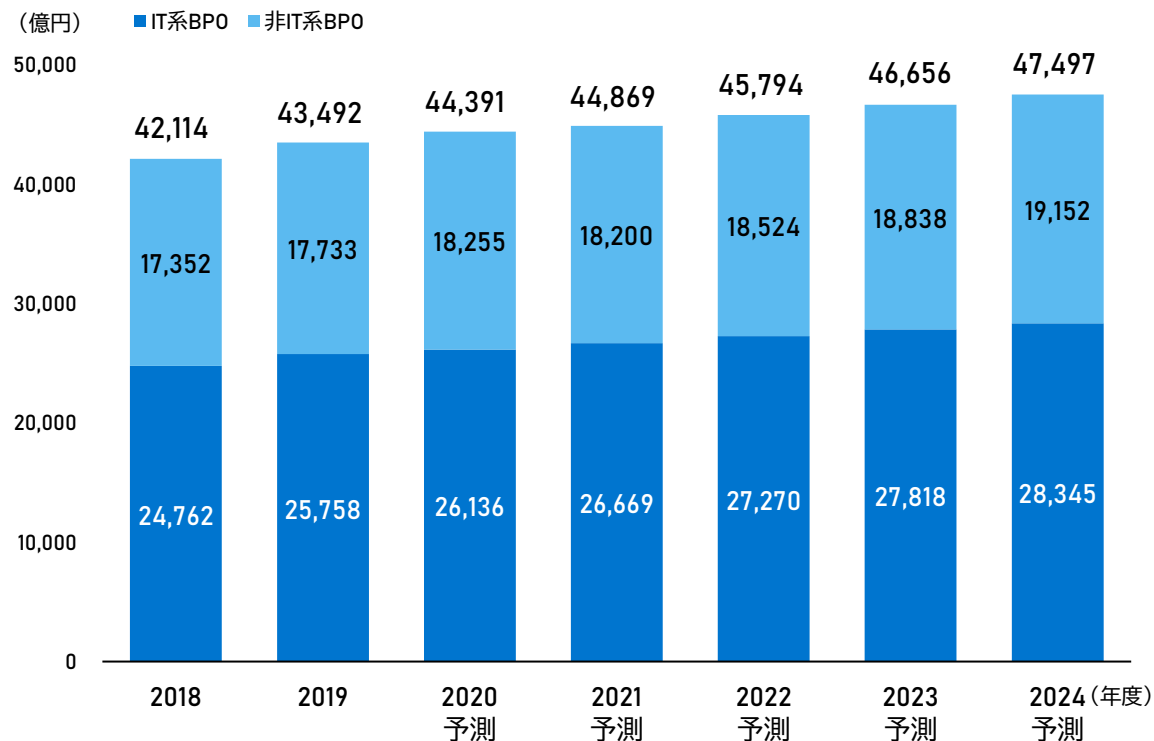
02

監視カメラ画像解析AIで安心安全なまちづくりに貢献

店舗混雑の可視化、介助が必要な人の発見、駅の安全管理など

モルフォの画像処理・画像認識AI技術において差別化できる領域にて顧客課題の解決を狙う
OCRを起点に、将来的にはBPO市場のうちデータエントリー業務への参入を目指す

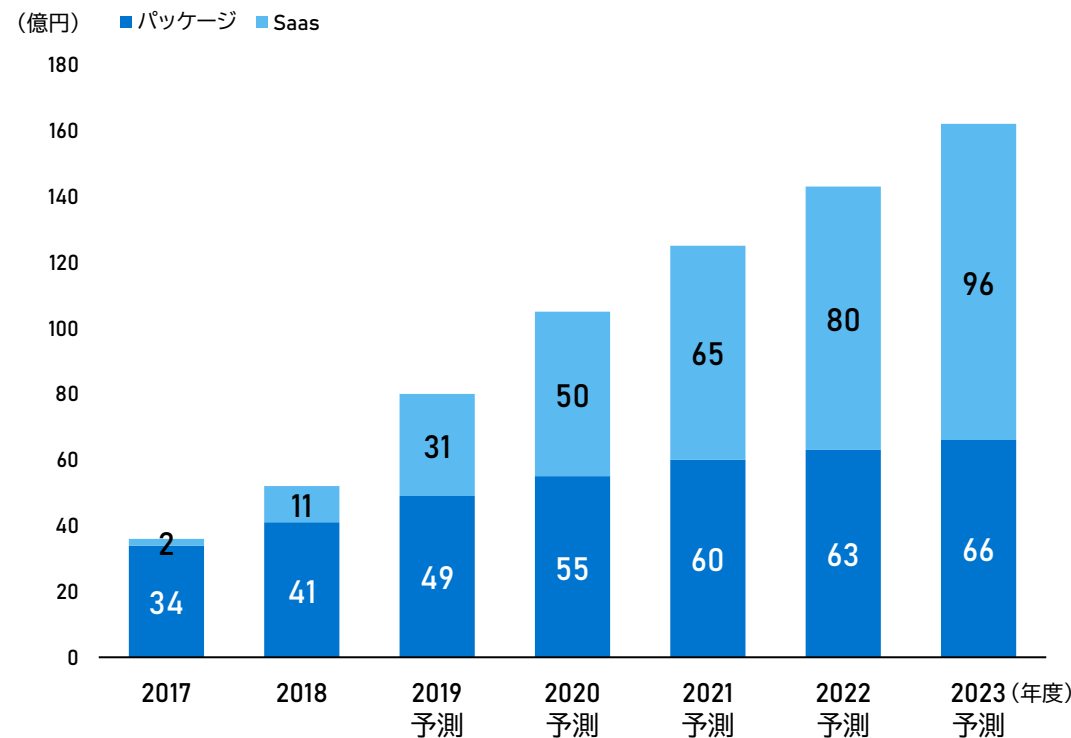
国内BPO市場規模推移予測



出典:矢野経済研究所

注1:事業者売上高ベース 注2:IT系BPOとは発注企業からシステム運用管理業務を委託され代行するサービス。非IT系BPOとはその他の業務を委託され代行するサービスとする。 注3:2020年度以降は予測値

国内OCR市場規模推移予測:提供形態別

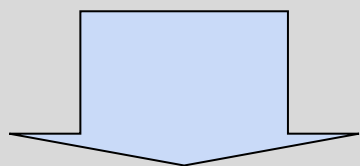


出典:ITR「ITR Market View:RPA/OCR/BPM市場2019」

注:ベンダーの売上金額を対象とし、3月期ベースで換算。2019年度以降は予測値。

明治期～昭和期の書籍画像(2億枚)のテキスト化処理の研究開発

国立国会図書館デジタルアーカイブ上で提供される資料画像について、今後本文テキストデータの作成を行えるようにモルフォの保有する最新AI技術・画像処理技術を取り入れたOCR処理プログラム(NDLOCR)の研究開発を実施

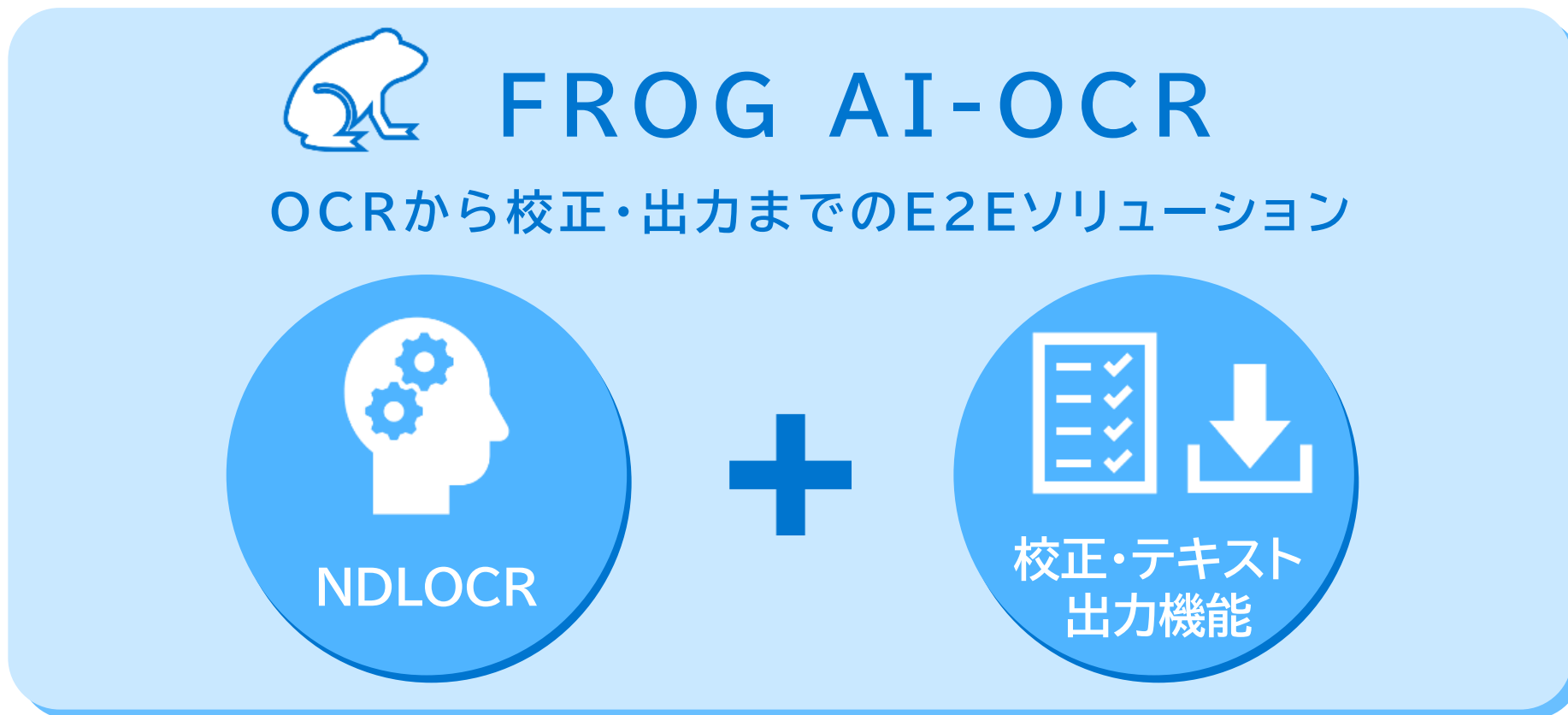


歴史的資料の全文テキスト検索を実現へ



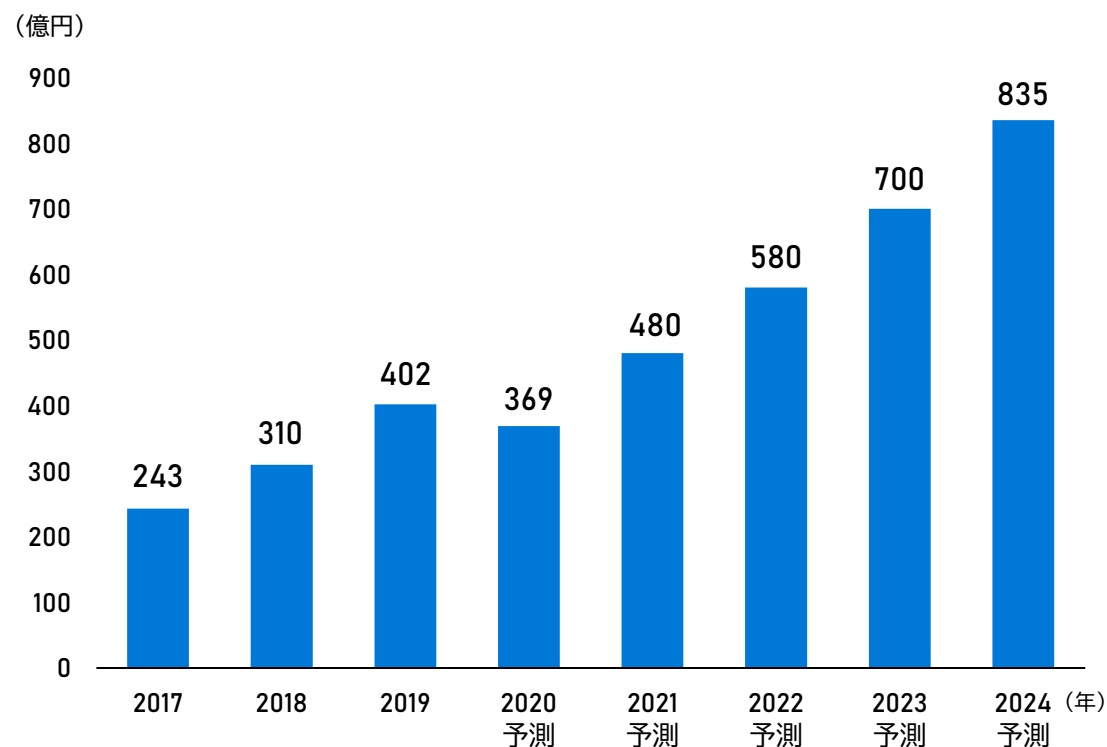
NDLOCRを活用した市販ソフト「FROG AI-OCR」を2022年7月より提供開始。
近現代の書籍・雑誌のテキスト化の目的で、県立図書館、大学による利用が開始。

| FROG AI OCR



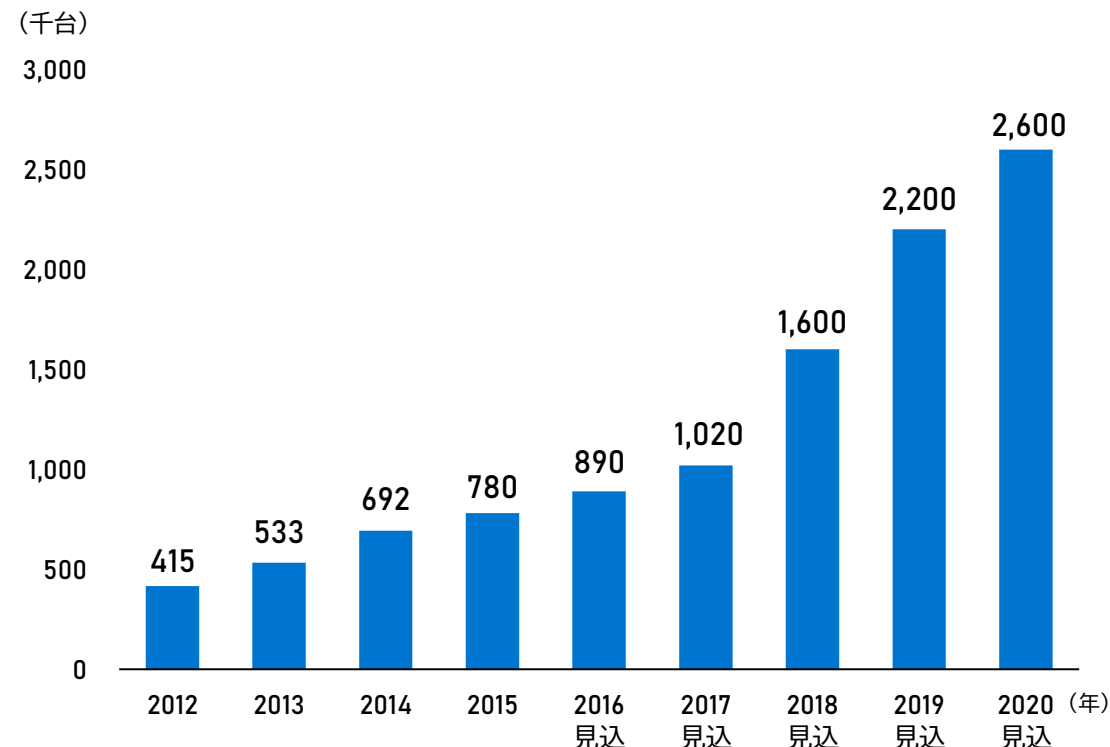
スマートシティの拡大や公共安全の関心の高まりと、監視カメラシステムの高度化により、AI活用が浸透。今後も画像解析AI分野の高い市場成長が予想される。

監視カメラ向けの画像解析 / VCA市場



出典: 矢野経済研究所

監視カメラ機器の国内出荷台数の推移



出典: 矢野経済研究所



監視カメラの画像を解析、介助が必要な人をリアルタイムで検出

- シチュエーション： ショッピングモール、駅、街角の安全管理
- 活用例： 運用センター監視・駆けつけ、駅・公共施設での動線案内・危険の回避

車いすの人



白杖で歩く人



倒れている人



▶▶ パナソニックコネクト社を通じ、提供拡大の取り組み開始

Appendix

社名	株式会社モルフォ (Morpho, Inc.)
設立年月日	2004年5月26日
資本金	1,783,958千円 (2022年10月末)
事業内容	画像処理およびAI(人工知能)技術の研究・製品開発。 スマートフォン・半導体・車載・産業IoT向けソフトウェア事業をグローバルに展開。
所在地	東京都千代田区神田錦町二丁目2番1号
役員	代表取締役社長 平 賀 督 基
	取締役 西 山 貴 之
	取締役 内 田 明 美
	取締役(社外) 各 務 茂 夫
	取締役(社外) 永 田 清 人
	取締役(社外) 秋 山 ゆ か り
	常勤監査役(社外) 根 岸 秀 忠
	監査役(社外) 上 原 将 人 (公認会計士)
	監査役(社外) 平 野 高 志 (弁護士)
従業員数	連結143名 単体82名 (2022年10月末)
主要株主	平賀 督基、株式会社デンソー、株式会社ミックウェア
主要取引銀行	三菱UFJ銀行、みずほ銀行
上場金融商品取引所	東京証券取引所グロース市場(証券コード:3653)(上場日:2011年7月21日)

2004年05月	株式会社モルフォ設立
2004年09月	第三者割当増資を実施、株式会社東京大学エッジキャピタルから出資を受ける
2004年10月	「PhotoSolid®」(静止画手ブレ補正技術)、「MovieSolid®」(動画手ブレ補正技術)を発表
2007年10月	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモと業務資本提携
2007年12月	NOKIA Growth Partners と資本提携
2011年07月	東京証券取引所マザーズ市場に株式上場
2012年02月	Morpho US, Inc.設立
2013年10月	Morpho Korea, Inc.設立
2014年12月	ディープラーニングによる画像認識技術の開発に成功、「Morpho Scene Classifier™」等の提供開始
2015年12月	株式会社デンソーと資本業務提携
2017年04月	株式会社エスアールエルと業務提携
2017年11月	みらかホールディングス株式会社(現 H.U.グループホールディングス)と資本提携
2017年12月	世界最速級のディープラーニング推論エンジン「SoftNeuro®」を製品化
2018年06月	Morpho China, Inc.設立
2018年10月	フィンランドAI開発企業 Top Data Science, Ltd. 子会社化
2019年09月	当社ソフトウェア製品の累計ライセンス数が30億ライセンスを突破
2019年11月	PUX株式会社を持分法適用関連会社化
2019年12月	株式会社モルフォAIソリューションズ設立
2020年06月	Morpho Taiwan, Inc.設立
2021年09月	株式会社ミックウェアと資本業務提携
2022年04月	株式会社デンソーと共同研究開発した高度運転支援システム向け画像認識技術が「Global Safety Package3」に採用
2022年06月	株式会社モルフォAIソリューションズが、世界初・近代書籍対応の市販AI-OCRソフト「FROG AI-OCR」を発売

画像技術・AI技術を駆使したソフトウェア製品の開発

画像処理製品

静止画向け電子式手ブレ補正・ノイズ除去技術

動画向け電子式手ブレ補正・高速再生技術

ノイズ除去技術 ダイナミックレンジ補正技術

複数枚画像合成によるダイナミックレンジ補正技術

超解像技術 高解像度パノラマ画像生成技術 など

AIを活用したノイズ除去



AI 製品

ディープラーニング推論エンジン

自動画像領域分割&レタッチ技術

二眼カメラ向けぼかし画像生成技術

単眼背景ぼかし技術

姿勢推定技術

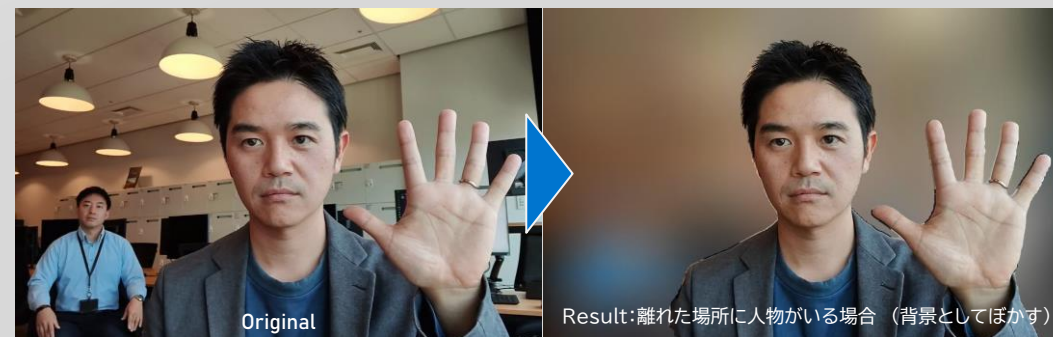
物体検出技術

物体追跡技術

混雑状況解析技術

AI学習環境 など

ビデオ会議向け背景ぼかし





エッジAIの国際業界団体のアワードを3年連続で受賞
Semantic Filteringが「ベストAIソフトウェア／アルゴリズム賞」受賞



2020年の受賞企業。3年連続はモルフォとインテルのみ



Qualcomm社との協業

Qualcomm社 Tech Summit 2020
Snapdragon適応技術として採用

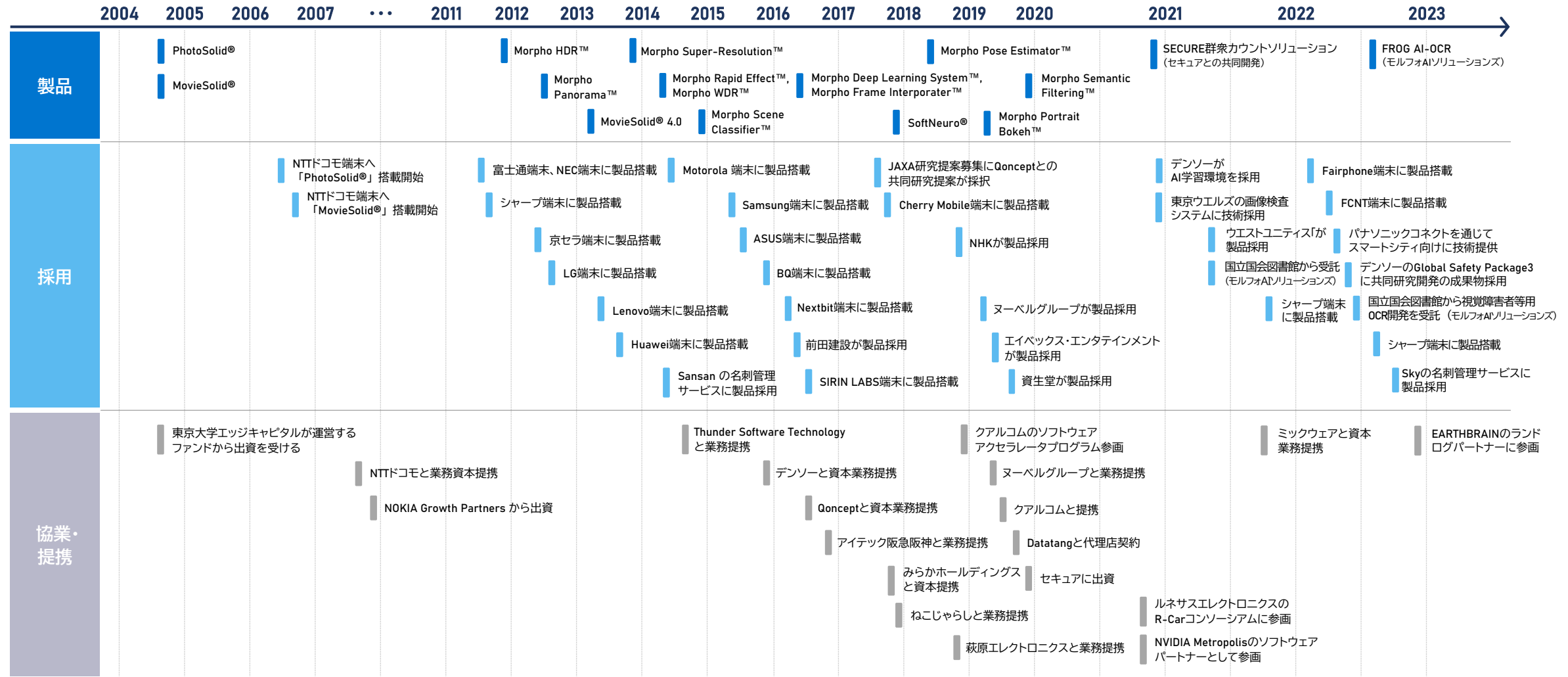
モルフォ技術が利用されるフィールドは市場変遷とともに拡大へ

市場の変遷

モルフォの技術



設立以来、エッジデバイス向けを中心に多数の採用実績を誇る



ソフトウェア・ライセンス事業により収益の積み上げを実現

ロイヤリティ収入

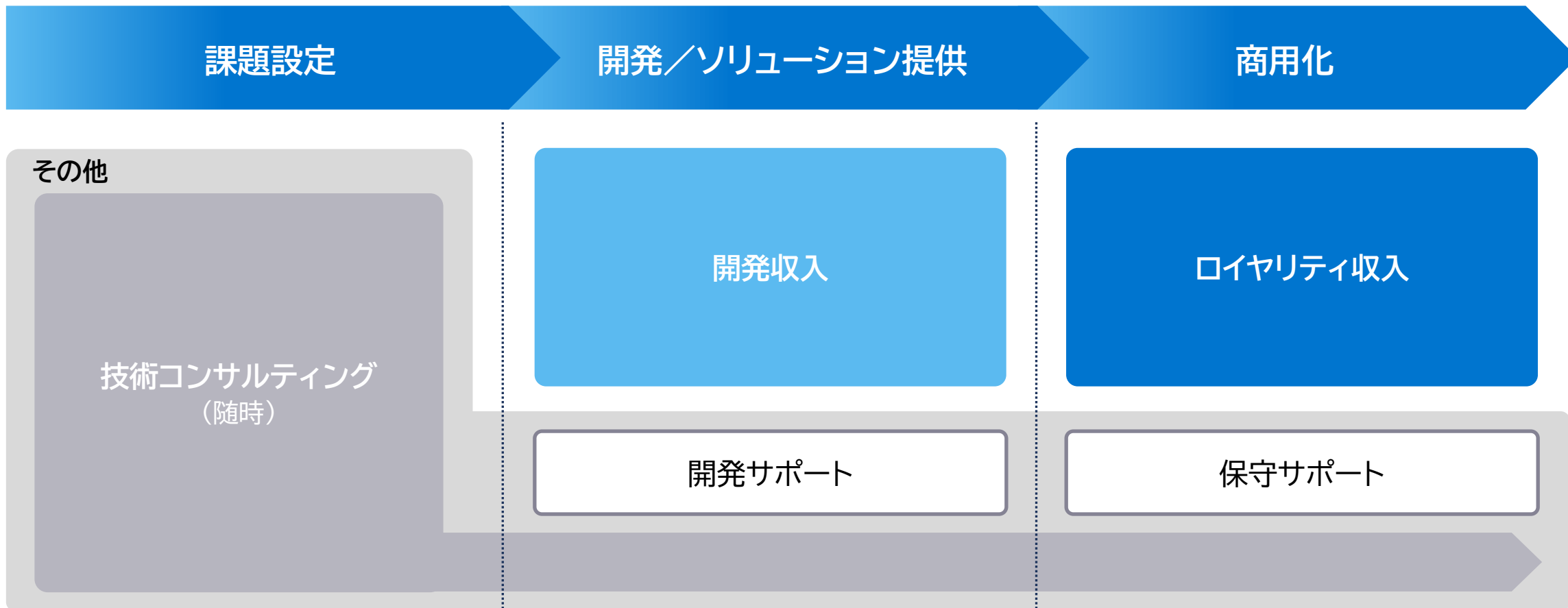
- 各メーカーへ当社グループのソフトウェア製品を提供
- 各メーカー製品の出荷台数/期間に応じたライセンス料収受

開発収入

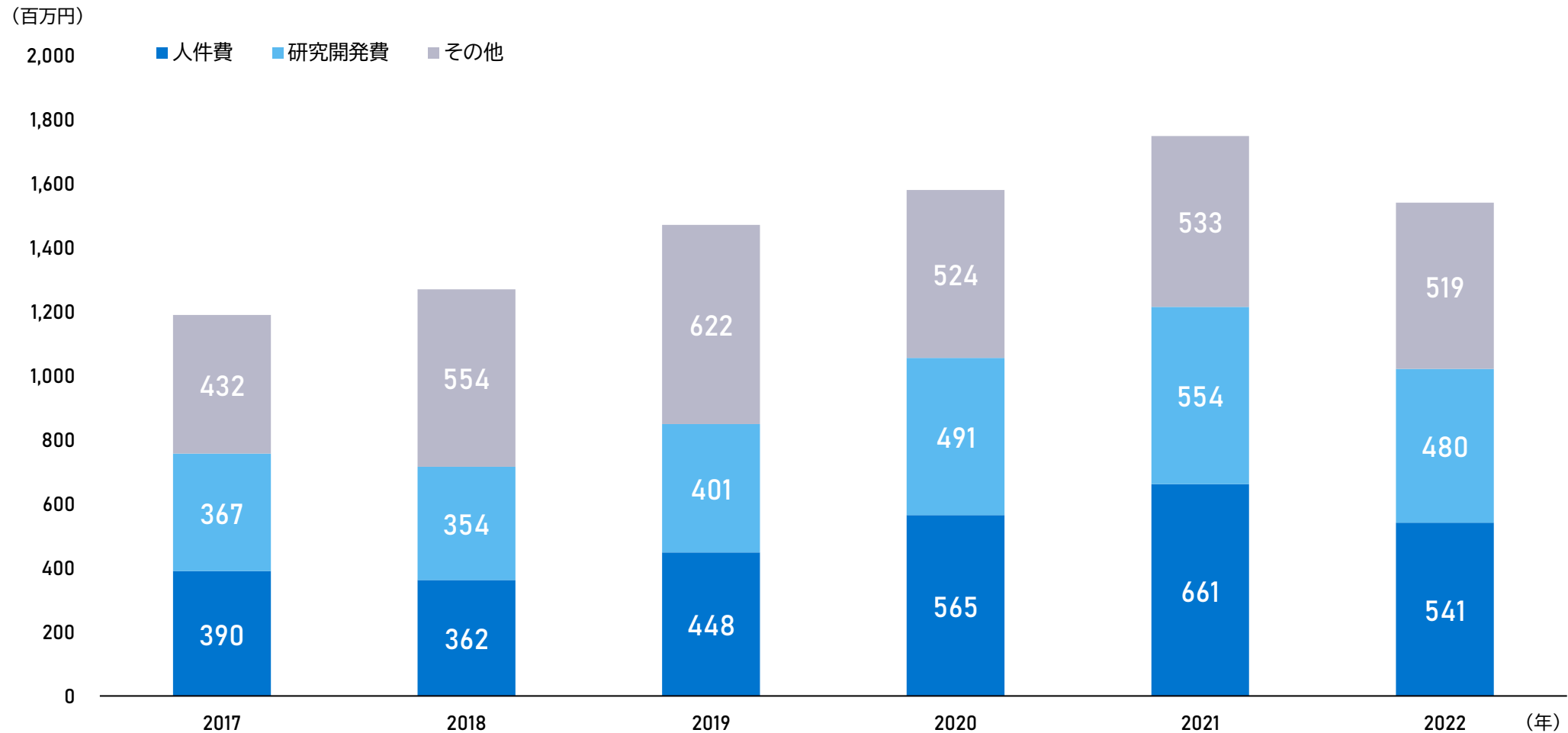
- 新製品・サービス開発時に、各メーカーからモルフォが開発を請負
- 一定の条件を満たせば当社グループ単独でライセンス展開

その他

- 各メーカーへ当社製品の実装支援を実施する開発サポート収入
- 各メーカーへ製品利用許諾後に技術的サポートを実施する保守サポート収入



2022年10月期販管費は前年同期比208百万円(11.8%)減少し、2019年10月期水準に近づく
 将来の成長を見据えた研究開発は継続しており、2022年10月期R&D比率は24%



主な競合先

競合先	A社	B社	当社
所在地	China	Sweden	日本
主な競合領域	静止画	動画	-
事業領域	コンピュータビジョンアルゴリズムと技術ソリューション提供 (スマートフォン、スマート車載、スマートホーム、スマートリテールなどの多様なカメラ付きAIoT(AI+IoT)デバイスメーカー向け直販)	Smartphone, Body cams, Smart glasses, Drones, Robotic vision & Industrial automation, Automotive, Chipsets & smart camera modules, Security and surveillance, Smartwatches, Online video platforms	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートデバイス (スマートフォン、PC/タブレット端末) ● 車載モビリティ(車載カメラ、ドライブレコーダー) ● DX(OCR、監視カメラ)
売上高	9,758百万円(2021年12月31日) ※2021年平均レート:1円=17.03円	809百万円(2021年12月31日) ※2021年平均レート:1SEK=12.81円	1,997百万円(2022年10月31日)
従業員数	693名(2021年12月31日)	39名(2021年12月31日)	143名(2022年10月31日)

※ 各社の公表情報もとに当社にて作成

No	リスク項目	リスク内容	顕在可能性 /時期	影響度	対応策
1	新技術および 新製品の開発	<ul style="list-style-type: none"> ① 既存技術の陳腐化 ② 競合製品の登場 ③ 製品投入の遅延 ④ 市場ニーズとのミスマッチ ⑤ 開発環境の急変 	中/ 中長期	大	<ul style="list-style-type: none"> ① 独自の画像処理技術を強みとして、ディープラーニング（深層学習）技術を初めとした製品・技術開発への取り組み ② インターンシップの導入や人事評価制度の整備、福利厚生 の充実、有能な人材の積極的採用による開発技術部門の 有能な人材の確保と育成
2	知的財産権	<ul style="list-style-type: none"> ① 侵害されるリスク ② 侵害するリスク ③ 訴訟されるリスク 	中/ 中長期	大	<ul style="list-style-type: none"> ① 特許の獲得と保護 ② 第三者の知的財産権を侵害しないよう十分な調査のもと にした製品開発 ③ 弁理士事務所との連携強化
3	特定の市場/ 顧客への依存	<ul style="list-style-type: none"> ① スマホ市場の成長鈍化や後退 ② 主要顧客との取引環境の変化による 業績の変動 	高/短期	大	<ul style="list-style-type: none"> ① 取引先との継続的で良好な関係の維持 ② その他様々な地域/用途/顧客への取引展開を加速しリ スク分散
4	海外事業展開	カントリーリスク(法律・規制・税制変更、政治・ 経済情勢の変化、異なる商習慣)、為替変動、協 力会社の業務状況	中/不明	中	<ul style="list-style-type: none"> ① グローバルな経営体制の構築、情報収集体制を含む内部 統制の強化 ② 為替リスクを低減するための為替予約によるヘッジ

リスクの詳細については、有価証券報告書「事業等のリスク」をご参照ください。

No	リスク項目	リスク内容	顕在可能性 /時期	影響度	対応策
5	自然災害および感染症等	①地震及び台風等の自然災害、事故、火災、テロ等の発生 ②新型コロナウイルス感染症(金融庁から記載指示あり)の感染拡大に伴い事業遂行が不能となるリスク	小/不明	大	① 事象の発生内容に応じて対策本部設置する等、グループ一体で事態対応を行われるよう体制を整備 ② 従業員の安全確保、社会的要請への最大限の協力、事業遂行の維持を目的として「新型コロナウイルス感染予防対策」ガイドラインを策定し、これに沿って組織的な感染予防対策を実施
6	内部管理体制	海外子会社の内部統制整備、管理部門の人材確保を含んだ管理体制の整備、役職員の不正及び不法行為の発生	小/不明	中	海外子会社も含めた内部統制システムの適切な運用、充実、強化
7	提携及び買収	他社との事業提携・資本提携及び他社の買収において、経済環境の変化等の影響により、期待した収益や成果を十分に得られなかった場合には、当社グループの事業展開及び業績、財務状態に影響を及ぼす可能性あり	中/ 中長期	大	① 期待される収益(リターン)、提携先のDD等を通じたリスク評価により、提携時の意思決定に際して十分な検討を行う ② 提携および買収後もPMIを通じて、円滑な事業遂行を阻害する要因を早期に洗い出し対処を行う

リスクの詳細については、有価証券報告書「事業等のリスク」をご参照ください。

No	リスク項目	リスク内容	顕在可能性 /時期	影響度	対応策
8	事業成長	中期経営計画「Vision2024」で設定している事業戦略が、経済環境の変化等の影響により、計画どおり進捗しなかった場合には、当社グループの事業成長に影響を及ぼす可能性あり	中/中長期	大	<p>当社を取り巻く外部環境を注意深く観察しながら、高い技術力や資金力など当社の資産を有効活用し事業戦略を進捗させ、まずは2024年10月期の黒字化を実現する。</p> <p>事業戦略概要</p> <p>①SD(スマートフォン・PC):中国・米国を中心とした海外顧客向けIPの開発及び販売強化を進め高収益なロイヤリティ収入を拡大する。また、大手半導体メーカーとの連携を強化し開発投資の最適化を図る。</p> <p>②モビリティ(車載機器):国内大手企業との連携により、まずは開発収入の規模拡大と安定化を図り、その後ロイヤリティビジネスへの転換を進める。また、自社プロダクトの拡大を図り、プロダクトポートフォリオを拡充することで、顧客への訴求力を向上する。</p> <p>③DX(デジタルアーカイブ・スマートシティ・FAなど):OCRや監視カメラ向けソリューションなど競争力の高い事業を軸に新規事業開発を進める。</p>

リスクの詳細については、有価証券報告書「事業等のリスク」をご参照ください。

- 売上：開発収入増加が寄与し前年同期比+15.4%
- 費用：売上原価増加するも、販売管理費減少の影響により前年同期比△1%
- 営業利益：前年同期比+293百万円
- 当期純利益：特別損失(固定資産の減損処理)を92百万円計上

(単位:百万円)	2021/10期 通期連結業績	2022/10期 通期連結業績予想 (2021/12/10公表)	2022/10期 通期連結業績	2022/10期 予想/業績の差異要因
売上	1,730	2,310	1,997	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ感染拡大による営業活動の制約や半導体不足によるスマホ発売機種減少などの影響により中華圏における新規案件の受注の進捗に遅れが発生 ●中華圏以外の地域においても新規案件の受注の進捗に遅れが発生
営業費用	2,612	2,700	2,585	人件費などの固定費が減少
営業利益	△881	△390	△588	
経常利益	△841	△390	△510	
親会社株主に帰属する 当期純利益	△793	△460	△668	固定資産について、減損損失 92 百万円を特別損失として計上

営業赤字縮小を加速させ、2024年10月期黒字転換を目指す

- SD領域において海外顧客との取引拡大によりロイヤリティ収入を拡大する
- 車載/モビリティ及びDX領域で国内大手企業との取引を中心にした大型開発案件獲得により開発収入を拡大する

(単位:百万円)	2022/10期 通期連結業績	2023/10期 通期連結業績予想	増減	要因
売上	1,997	2,400	+403	海外におけるSD(スマホ・PC)関連のロイヤリティ収入増加 国内における車載/モビリティ・DX関連の開発収入増加
営業費用	2,585	2,650	+65	
営業利益	△588	△250	△338	
経常利益	△511	△250	△261	
親会社株主に帰属する 当期純利益	△668	△329	△339	20期売上増加による利益改善と19期特別損失(資産減損処理)の影響

本資料は、情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、当社の有価証券の買付けまたは売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。

本資料に含まれる将来予想に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。また、これらの将来予想に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。

別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。

当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

本資料のアップデートは、2024年1月下旬ごろを目途として開示を行う予定です。

A large, intricate wireframe butterfly graphic on the left side of the slide. It is composed of numerous white dots connected by thin white lines, forming the shape of a butterfly in flight. The background is a solid blue color with a diagonal split.

お問い合わせ先
コーポレート戦略部 IR担当
E-Mail: m-info-ir@morphoinc.com